

【足立参議院議員】地震、津波、火災など／輪島、珠洲など被災地調査



珠洲市内での道路被災を調査

自由民主党の足立敏之参議院議員は2月26日～27日に、令和6年能登半島地震で被災した石川県輪島市、羽咋市、志賀町、珠洲市、能登町などで被災地調査を行った。輪島の朝市通り周辺の復興には、もとのたたずまいを感じる街並みの再生に全力を挙げる必要を強く感じたという。

26日の被災地調査は、輪島市内の鳳輪建設業協会会館で被災地状況と協会の対応状況の説明を受けた後、稲船町の国道249号大規模土砂災害現場を視察。その後、輪島市役所で坂口市長から現状と課題について聞いた。市長からは地元建設業界の頑張りに対する感謝の言葉、仮設住宅建設の遅れに対する

懸念などの意見があった。

市街地の被災状況は「阪神淡路大震災を彷彿とさせるような倒壊状況で、建物被害の深刻さ」に驚いたという。地震後に大火に見舞われた朝市通りは、被害が凄惨で300戸を超える家屋の被災状況に愕然、「もとのたたずまいを感じることができる街並みの再生に全力で頑張らないといけない」と決意を新たにした。

漁港の被害も深刻。石川県漁協輪島支部で状況を確認し、4m近い海岸の隆起で漁港が使えず、大規模な浚渫を行うか、港を郊外に移設したいとの要望があった。



輪島市内の被災状況を調査

輪島市門前町では、覆工コンクリートが崩落して通行止めの中屋トンネル、町内の家屋倒壊現場、回廊等が倒壊した總持寺祖院、鹿磯・黒島漁港など海岸隆起の状況などを調査した。

羽咋市、志賀町でも、液状化対策、道路整備などの要望を受けた。

27日は珠洲市を調査。泉谷市長からは道路復旧など国の権限代行への感謝の言葉とともに、水道の復旧が厳しい状況、下水道の復旧にも懸念があることなどの率直な指摘があった。被災現場は、覆工コンクリートが崩落した国道249号大谷トンネル、その海側に位置する烏川大橋（大谷ループ橋）を視察。橋梁自体は大きな損傷が見られないが東側のアバット部が崩落していた。

飯田港付近の地震津波現場では、あたり一面に大きな被害が出ていたが、昨年建設された新たな建物は流されず残っており、今後の復旧にあたってのヒントがありそうに感じたという。海沿いは地震と津波により深刻な被害が生じていた。

能登町では、白丸地区で地震、津波、火災の三重苦となった現場を視察。地震後、最大5m程度の津波が2度押し寄せ、大規模火災に見舞われ深刻な被害が発生していた。

なお、被災地入りする前日の25日は糸魚川市を訪れた。雪国の風物詩「雁木」を復元する街づくり、災害復興住宅も2～3階の低層木造建築にするなど、かつてのイメージを残した風情ある街づくりが行われている。輪島の朝市通りや珠洲の街並みの再生にとって大いに参考になるという。